



市民懇談会ニュース

-第1回 令和6年(2024年)7月28日(日)-



越谷市では、まちづくりの指針となる「第5次越谷市総合振興計画 後期基本計画」の策定を令和6年度からの2か年をかけて行います。

この計画に多くの市民の皆さんの想いや意見を反映させるため、様々な市民参加の取組みを行っており、そのひとつとして全4回の“市民懇談会”を開催します。

開催スケジュール



7月28日(日) 13:00～16:00

■基調講演

市民参加のデザインによる共創型まちづくり

講師 高崎経済大学地域政策学部准教授

長野 博一 氏

□懇談会

●多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり

●みんなが健康で共創して住み続けられるまちづくり



8月21日(水) 18:00～20:30

●都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり

●持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり



9月19日(木) 18:00～20:30

●魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり

●みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり



10月5日(土) 13:30～16:00

●越谷市のめざす姿を考えよう

懇談会プログラム



イントロ 越谷市の状況

1 越谷の「いま」を考えよう

理想のまちの姿
越谷市の特徴（弱み・強み）

2 越谷の「未来」の姿を描こう

未来に向けて重視したいこと
未来のためにできること

3 グループ発表

第1回市民懇談会を開催しました！

初回の懇談会は、25人の市民の皆さんが参加し、6つのグループに分かれ、越谷の「いま」と「未来」について、熱い議論が交わされました。

懇談会に先立ち、高崎経済大学の長野准教授の基調講演があり、また、懇談会全体の総評として、長野准教授から“I love Koshigaya”の想いを言語化することの重要性や、サードプレイスの考え方について助言をいただきました。

第1回市民懇談会 参加者の声

✓ 越谷の「いま」について

課題や魅力などの新たな気づき

→子どもや孫がすくすく育った恵まれた環境だと改めて感じた。

→人財がたくさんあることに気づいた。

→様々な意見を聴いて初めて知ることが多かった。

→自分だけでは気づかない視点を得られた。

✓ 越谷の「未来」について

将来も越谷に暮らし続けたい、関わりを持ち続けたい

→生活環境が良い(川のまち・緑も多い)から。

→子どもたちと虫捕りができるのが好きだから。

→市民が行政に参画できる機会が多いから。

→暮らしやすく、安心安全な街になってきている。

→地産地消できる。

→多世代交流がしやすいから。

→どうなりたいかを考えただけでも“I love Koshigaya”となる！

どんなまちで暮らしたいのか、理想を描くため、まちの未来を示す【ビジョンカード】を使って、理想的なまちの姿を考え、グループ内で共有しました。



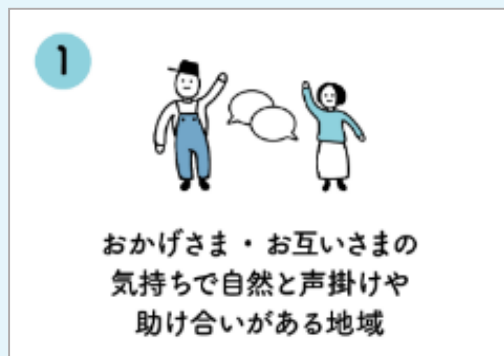
【ダイアログカード】という質問カードを使って、グループメンバーに越谷の「いま」について、質問しました。みんなが答え合わせをしていく間に、これから伸ばしていきたい越谷の強みや解決したい課題が見えてきました。



見えてきた強みや課題に対して、これから創っていきたい未来の越谷の姿を描き、その実現のために自分たちにできることや必要な取組みをまとめました。

《参考》 ワークショップで使用したカード

【ビジョンカード】



理想的とするまちの姿が書かれた全12種類のカード

⇒参加者がそれぞれが理想と考えるまちを表すカードを選択し、意見交換することで、目指すまちの姿をグループ内で共有できる。

【ダイアログカード】

(オモテ)	(ウラ)
④ まちのウェルビーイング 住んでいる地域に これからも住み続けたいと思う 2-2 YES	④ まちのウェルビーイング 住んでいる地域に これからも住み続けたいと思う 2-2 NO
(オモテ)	(ウラ)
⑤ 地域とのつながりやすさ 地域にサポートが必要な人 (高齢・障がい・単身など)が いるかどうかを把握できていると思う 5-3 YES	⑤ 地域とのつながりやすさ 地域にサポートが必要な人 (高齢・障がい・単身など)が いるかどうかを把握できていると思う 5-3 NO

まちに関する質問が書かれた全69種類のカード

⇒カードの質問に対し、Yes/Noで立場を表明して意見交換することで、グループ内でまちの現状を確認することができる。

※全69枚のカードから、ワークショップのテーマに合ったものを使用する。(第1回市民懇談会では15枚を使用)

※カードは、5つのカテゴリに分かれている。

(④まちのウェルビーイング、⑥行政との共創のしやすさ、
⑤地域とのつながりやすさ、⑦くらしやすさ、⑧地域資源の豊かさ)

基調講演「市民参加のデザインによる共創型まちづくり」

講師 長野 博一 氏

公立大学法人高崎経済大学
大学院地域政策研究科准教授



■ 市民参加の意義

市民参加の意義は、つきつめると「対話」することです。対話がない状態でいくら議論をしても合意形成はできません。ですから、まず、今日のような場で、皆さん積極的に話し合っていて、他の方々の考えを知ることが大事です。対話によって、いろいろな人の考えをすり合わせ、「それは合意できることか」確認する作業が大切なのです。だから、対話の場では、相手の意見を決して否定せず、理解し合うということを意識して参加していただきたいと思います。

また、連携や協働によって多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を共に創りあげていくことを「共創」と言いますが、これからの市民参加に必要なあり方であると思います。

市民参加の意義

◆積極的な市民参加

⇒「市民参加」はWS・まち歩き点検が目的ではなく、**対話**が大事
⇒「市民参加」の意味・効果・影響など、皆で**理解**し合う事が必要

◆当事者間合意、行政との合意、関係者間の合意

⇒ もし対立したとしても、**お互いを知ること**から始まる
⇒ 「知る」「考える」「共有」が合意形成には必要
⇒ 合意や同意を目的に進めることではない
⇒ いかに皆で「**納得**」して進められるかがカギ



市民参加の意義＝対話・理解・納得⇒協力し合う

■ 今までのやり方と本来あるべき姿

今までの市民参加は、政策決定やまちづくりに対しての問題点の指摘や要望する（要望を聞く）ことでした。一步進んで、政策提言が行われたとしても、責任は発生しませんでした。

これが、だんだんと変わってきて、本来あるべき市民参加の姿というのは、当事者である市民の皆さんが、主体的に自分たちの問題としてとらえ、責任を持って考えて実践に繋げる行為でなければなりません。

そのためには、行政からの仕掛け（市民参加をデザイン）、行政と市民が対話できる様々な場を設置することが必要なのです。

■ より広範囲の人々を計画づくりに巻き込むには

より広範囲の人々に計画づくりに参加してもらうため、行政が市民をどのように巻き込んでいくかについて、12の要点を紹介します。

<ナガノ式・市民参加メソッド>

- ①早期に耳を傾け、計画策定プロセスに反映させる
 - ・利害関係者は誰かをきちんと整理する。
 - ・参加する人たちの優先事項は何かについて、皆で共通認識を持つ。
- ②オンライン+対面のコミュニケーション
 - ・対面も大事だが、今の若い人、高校生や大学生はオンラインを好むかもしれない。
- ③設計し、様子を見て、調整する
 - ・仕組みを作るという意味の設計。一つの形を正解とせず、様子を見ながら調整する。
- ④様々な情報を得る方法を提供する
 - ・SNSやインターネットなど色々な方法があるが、行政と事業者の責任で工夫する必要がある。
- ⑤短時間に済ませられるようにする
 - ・例えば、アンケートは、何十枚もあると答えてくれない。インセンティブがあると、答えてくれる方が増えるかもしれない。
- ⑥市民に勉強してもらう部分を盛り込む
 - ・行政と市民がコミュニケーションを図るためには、市民に勉強してもらう部分を盛り込む。
- ⑦写真図表を活用し、文字を減らす
- ⑧多言語でも参加できるようにする
- ⑨対立する者双方に向けたサービスを用意
 - ・図表等の活用や多言語対応、また画面読み上げ機能や視認性機能なども用意する必要がある。
- ⑩地域の活動家を頼る
 - ・行政が市民の代表者を味方につける事はとても大事なことだと思う。
- ⑪簡易イベントを計画する
- ⑫参加する意義を示す
 - ・皆さん普段忙しいため、夜や休日に複数企画することも大事。
 - ・市民からの意見がいかに重要かをはっきり示した方が良い。

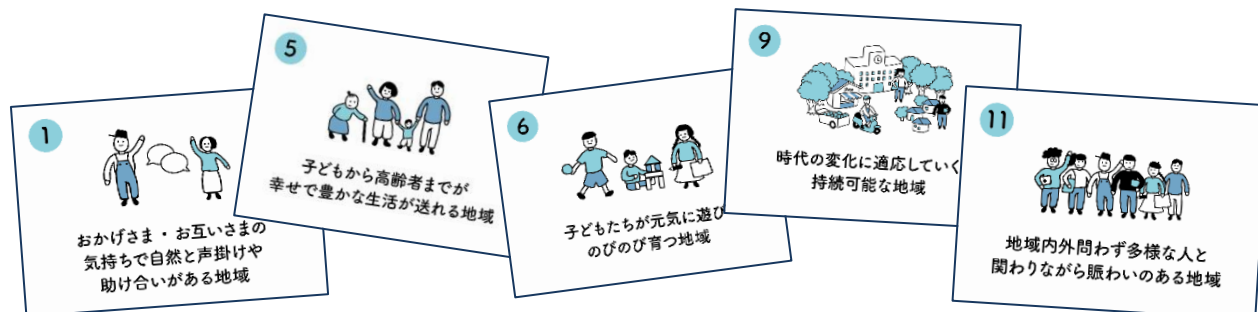
■ おわりに

市民参加について、行政と市民の皆さんに少し考えていただきたいと思い、話をさせていただきました。この後の市民懇談会で役立てていただければ幸いです。

グループ① テーマ：多様な人が交流し参加と協働により発展するまちづくり

1 越谷の「いま」を考えよう

暮らし続けたいまちの姿は？ 選択した理想のまちの姿と理由



①おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域

▶「地域コミュニティを大事にしたい」

⑤子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域

▶「子どもから高齢者まで楽しく遊べる環境づくり」

⑥子どもたちが元気に遊びのびのび育つ地域

▶「子どもたちが安全に楽しく遊べる公園を整備」

⑨時代の変化に適応していく持続可能な地域

▶「バス路線を整備して地域の移動手段を考える」

⑪地域内外問わず多様な人と関わりながら賑わいのある地域

▶「地域の商店街を盛り上げ、活気のあるまちにしたい」



いまの越谷の特徴は？(強み・弱み)

だれもが越谷が好きで愛着と誇りを感じており、これからも住み続けたいという話があった一方で、閉鎖的な側面があり、新たな住民が地域に入りづらく、地域外との連携ができていないといった声もありました。

<まちの状態についてYes/Noと主な理由>

① まちのウェルビーイング

愛着や誇りを感じる地域だと思う

2-1 YES

▶ 誰もが越谷が好き
▶ 越谷LOVE！

② 行政との共創のしやすさ

政策推進や地域活動に多くの住民を巻き込む工夫が見られると思う

4-2 NO

▶ 一部の住民に限られている

③ 地域とのつながりやすさ

地域の団体が連携・協力する体制があると思う

5-5 NO

▶ 団体どうしの連携ができていない

④ 行政との共創のしやすさ

行政（役所・役場）からの情報がチラシやポスター、ホームページなどで住民に広く提供されていると思う

4-3 YES

▶ 提供されているが、利活用されていない

⑤ 地域とのつながりやすさ

困っている人を見つけた時に声をかけるなど協力しあう雰囲気があると思う

5-2 NO

▶ 市内でも地域格差がある



2 越谷の「未来」を考えよう

未来に向けて重視したいことは？

- ▶ **地域特性を出したまち**
 - ・地域ごとの独自性と特徴を活かしたまちづくりが必要
- ▶ **地域の団体どうしが連携したまち**
 - ・地域の団体どうしが結束することで相乗効果が期待できる
- ▶ **開放的な地域コミュニティのまち**
 - ・新たな住民でも参加しやすい地域コミュニティづくりが必要



創りたい未来の越谷のために自分たちでできること・必要な取組みは？

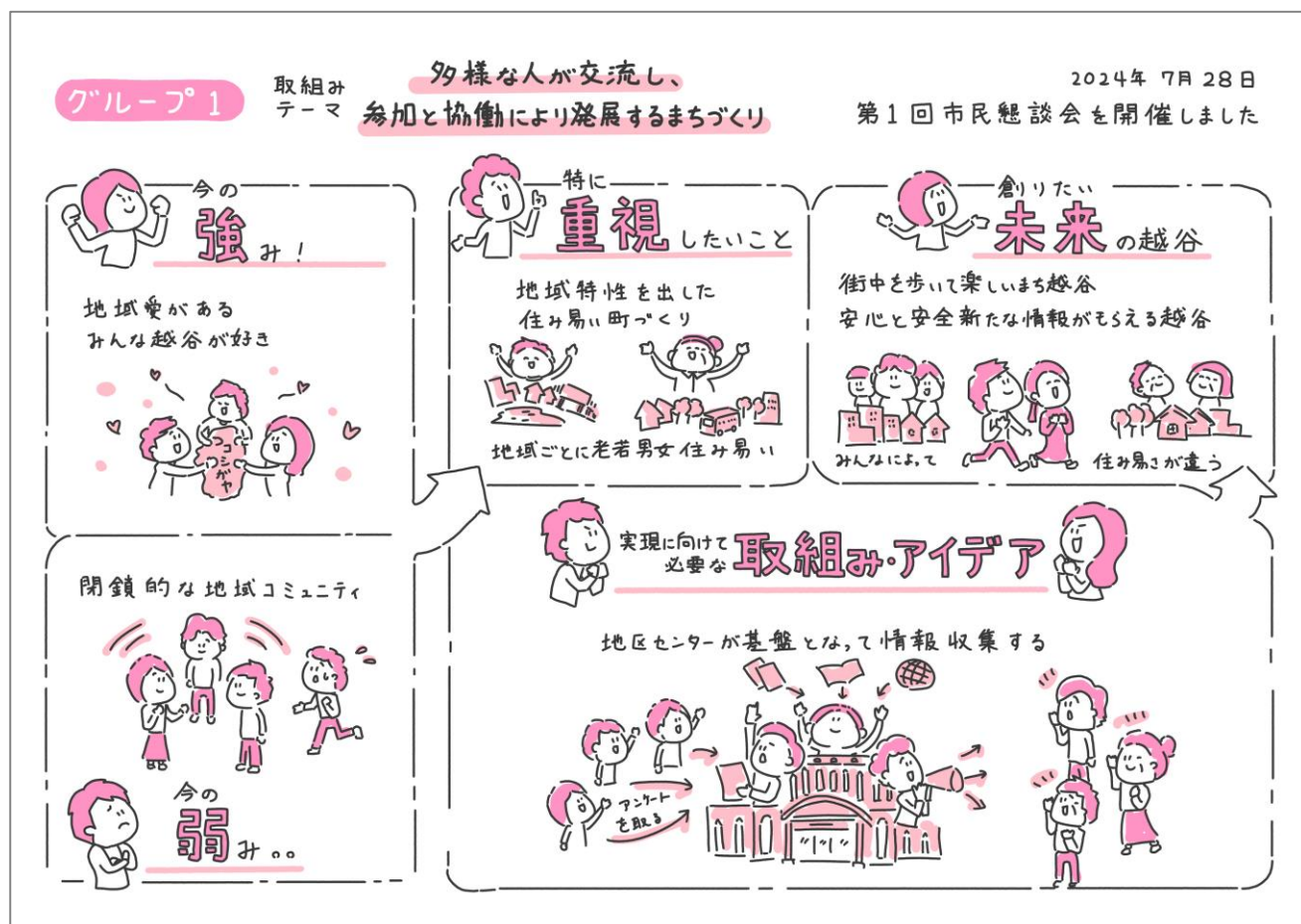
描く未来の
越谷

街中を歩いて楽しいまち越谷、
安心と安全 新たな情報、越谷

必要な取組み
(具体的な意見)

- 全市民に対しアンケートを募る
- 提供情報を利活用しやすい環境を整える
- 地区センター主導で地域特性を前面に出していく
- 地域交流の場を設ける

3 まとめ



グループ② テーマ：多様な人が交流し参加と協働により発展するまちづくり

1 越谷の「いま」を考えよう

暮らし続けたいまちの姿は？ 選択した理想のまちの姿と理由



②まちや地域に誇りや愛着がもてる地域

▶「特に子どもが地域を思い続けることが大切」

⑪地域内外問わず多様な人と関わりながら賑わいのある地域

▶「外国の人が増えたため、多文化共生の時代に対応していくことが大事だと思う」

⑫新しいことにチャレンジできたりそれを応援できたりする地域

▶「現在、自分の子どもが大学生なので」



いまの越谷の特徴は？(強み・弱み)

いま住んでいる越谷市に愛着があり、今後も増加が予想される外国人を受け入れる土壌や文化の多様性を大切にするべきといったことが話題にあがりました。

<まちの状態についてYes/Noと主な理由>

④ まちのウェルビーイング

住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思う

2-2 YES

- ▶ イオンがあって便利
- ▶ 散歩もしやすい

⑤ 行政との共創のしやすさ

行政（役所・役場）からの情報がチラシやポスター、ホームページなどで住民に広く提供されていると思う

4-3 YES

- ▶ 能動的に情報を取りにいかねばならない点も

⑥ 地域とのつながりやすさ

地域のために地域外の人たちとも連携した取り組みをしたいと思っている人が多いと思う

6-3 YES

- ▶ 市のことを考えて活動している人が多いと感じる

⑦ 行政との共創のしやすさ

政策推進や地域活動に多くの住民を巻き込む工夫が見られると思う

4-2 YES

- ▶ 説明会も何度も行われており努力がみられると思う



2 越谷の「未来」を考えよう

未来に向けて重視したいことは？

- ▶ 住んでいる地域に長く住み続けられる
 - ・これまでもこれから長く人が住み続けられるまちでありたい
- ▶ 安全安心な生活が送れること
 - ・長く住み続けるには安心と安全が確保されていることが大切
- ▶ 犯罪を少なくする
 - ・地域の人たちが協力することで犯罪を減らすことができるのではない



創りたい未来の越谷のために自分たちでできること・必要な取組みは？

描く未来の
越谷

外国人が増えたことによる
多文化共生の時代に対応する

必要な取組み
(具体的な意見)

- パトロールの強化！
- 市民の意識改革とそのレクチャー
- 多文化共生を大切にする！
- 自分があげた声かどのようなステータスかがわかる
透明性も必要
- 子育てしやすいまちに

3 まとめ

2024年 7月 28日
第1回 市民懇談会を開催しました

グループ 2

取組み
テーマ

多様な人が交流し、
参加と協働により発展するまちづくり

今の強み！

イオンがあって便利

みどりや木が豊か

どこに住んでも同じ？

特殊詐欺が不安

今の弱み。。

特に重視したいこと

住んでいる地域にこれから住み続けたいと思う

実現に向けて必要な取組み・アイデア

多文化交流や共生社会を理解するための勉強会や意識改革レクチャーの機会を設ける

創りたい未来の越谷

安全・安心な生活が送れること。
外国人が増え、多文化共生の時代に対応する。

犯罪の起きにくい環境づくり
(防犯カメラ設置、パトロール強化 etc...)

グループ③ テーマ：多様な人が交流し参加と協働により発展するまちづくり

1 越谷の「いま」を考えよう

暮らし続けたいまちの姿は？ 選択した理想のまちの姿と理由



⑤子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域

▶「コロナ禍で市民生活に大きな制約が増えた」

⑥子どもたちが元気に遊びのびのび育つ地域

▶「公園が少ないため、子どもをもっとのびのびと遊ばせたい」

⑦小商いで仕事ができる地域

▶「職住近接で地産地消なまちを実現したい」

⑨時代の変化に適応していく持続可能な地域

▶「もっと変化に迅速に対応していくべき」

⑩地域の資産を守り活かせる地域

▶「もっと散歩コースを充実させたい」



いまの越谷の特徴は？(強み・弱み)

困っている人を助ける雰囲気があり、魅力的なまちだからずっと住み続けたいという意見があった一方で、市からの情報発信が少ないという声や、イベントが少ないという声も見受けられました。

<まちの状態についてYes/Noと主な理由>

A まちのウェルビーイング

住んでいる地域に
これからも住み続けたいと思う

2-2 YES



▶ ずっと住んでいて家もある
▶ 魅力的なまち

C 地域とのつながりやすさ

地域の団体が連携・協力する
体制があると思う

5-5 YES



▶ ななサボがある
▶ 自治会が活発

C 地域とのつながりやすさ

子どもから高齢者まで多くの世代が
参加できるような地域活動があると思う

5-6 NO



▶ 花火大会はあるが、全体的に少ない

C 地域とのつながりやすさ

困っている人を見かけた時に声をかけるなど
協力しあう雰囲気があると思う

5-2 YES



▶ 助けているところを見たことがある

B 行政との共創のしやすさ

行政と住民の間で情報共有をしながら
地域の課題解決に取り組んでいると思う

4-4 NO



▶ 情報が少なく、わからない



2 越谷の「未来」を考えよう

未来に向けて重視したいことは？

▶職住近接で、かつ地産地消のスローフードなまち

- ・子どもの好き嫌いをなくしたい
- ・空いている越谷の農地を有効活用したい
- ・越谷で野菜を育ててみんなで食卓を囲みたい
- ・通勤時間を家族との時間に充てたい



創りたい未来の越谷のために自分たちでできること・必要な取組みは？

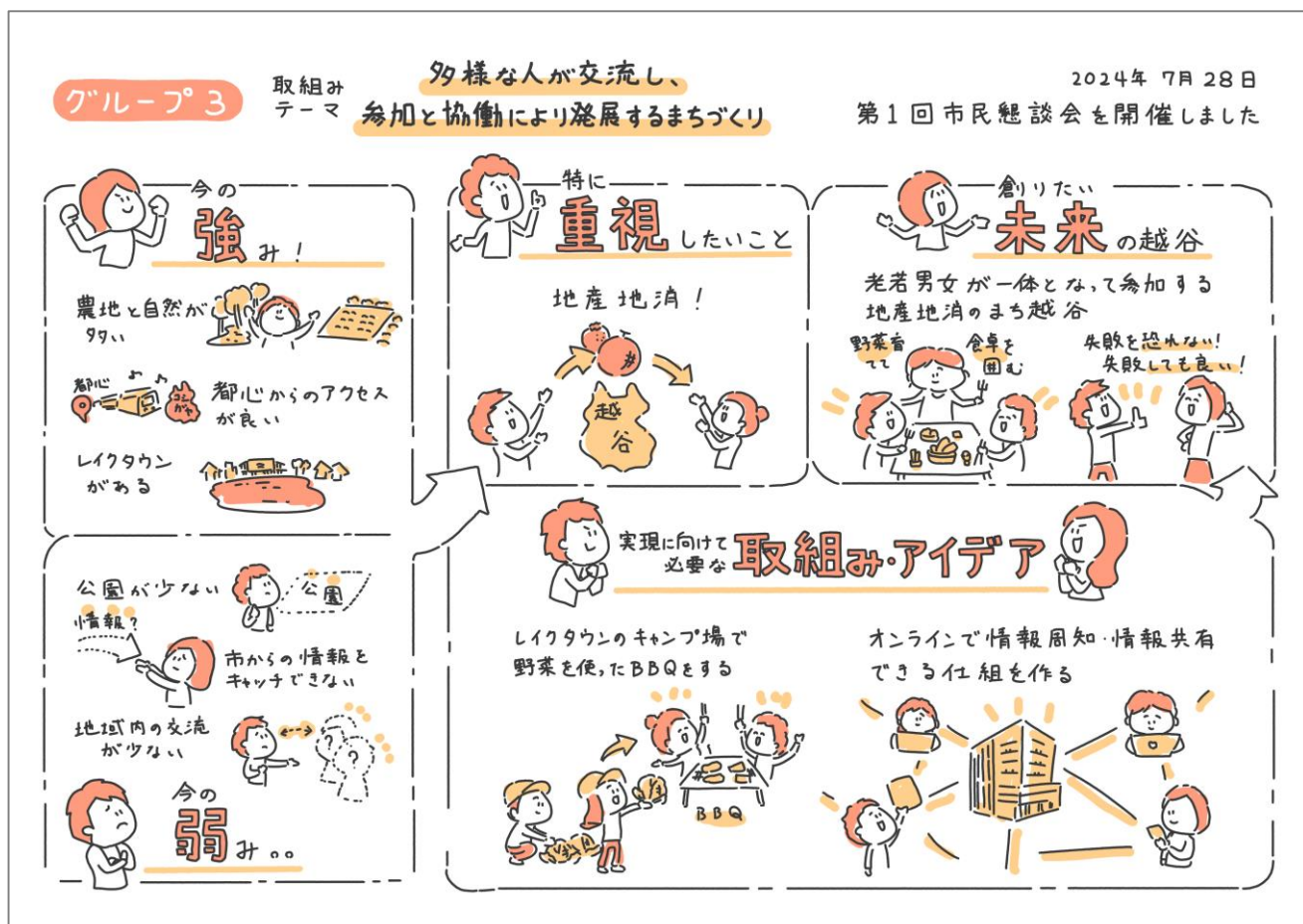
描く未来の
越谷

老若男女が一体となって参加する地産地消のまち

必要な取組み
(具体的な意見)

- レイクタウンのキャンプ場で越谷産の野菜を使ったBBQ(食育)
- 援農体験やバスツアーの企画
- 農家との繋がり創出
- 炎上しない仕組みを創り、様々な人が意見を出しながら交流できる場を提供

3 まとめ



グループ④ テーマ：みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり

1 越谷の「いま」を考えよう

暮らし続けたいまちの姿は？ 選択した理想のまちの姿と理由



①おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域

- ▶「統計の仕事や審議会委員として人とのつながりが大事だとわかった」

⑤子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域

- ▶「福祉がボランティアに頼りすぎている一面がある」「安心して暮らしていきたい」

⑥子どもたちが元気に遊びのびのび育つ地域

- ▶「自分の子どもや孫が健やかに育ち、よい環境である一方で、子どもの貧困が見逃せない」

⑪地域内外問わず多様な人と関わりながら賑わいのある地域

- ▶「長く地域で生活している人と新たに地域に加わった人がいて、多様であると感じている」



いまの越谷の特徴は？(強み・弱み)

子どもや孫たちがすくすく育ったよい環境であり、高齢者も前向きな人が多いという話があった一方で、子どもの貧困や一人暮らしの高齢者など、支援に関する課題も上がりました。

<まちの状態についてYes/Noと主な理由>

A まちのウェルビーイング

愛着や誇りを感じる地域だと思う

2-1 YES



- ▶ 環境が良くなった
- ▶ イオンレイクタウンのおかげ

D くらしやすさ

子どもが元気に遊べている地域だと思う

7-5 NO



- ▶ 大人の事情でのびのびと遊ぶことが出来ない

C 地域とのつながりやすさ

地域にサポートが必要な人（高齢・障がい・単身など）がいるかどうかを把握できていると思う

5-3 YES



- ▶ コミュニティ活動を通して把握できている

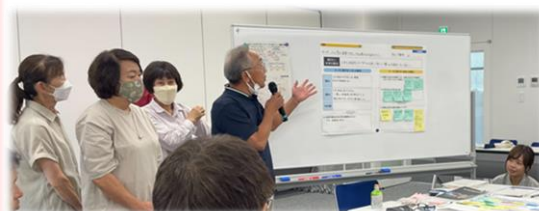
D くらしやすさ

こころやからだが健康だと感じている人が多いと思う

8-1 NO



- ▶ 高齢者の病院通いが多い



2 越谷の「未来」を考えよう

未来に向けて重視したいことは？

▶子どもと高齢者へのサポート

・子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちへ



創りたい未来の越谷のために自分たちでできること・必要な取り組みは？

描く未来の
越谷

子どもも独居老人もサポートが充実して
安心して暮らせる越谷になってほしい

必要な取り組み
(具体的な意見)

- 見守りを有償制にする
- 宅配サービス業者との安否確認連携
- 民生委員にマイレージポイント付与
- 地区センターに談話室を設けることで、気軽に来て楽しめる場所を提供！
- だれでも集まれる憩いの場をつくる

3 まとめ



グループ⑤ テーマ：みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり

1 越谷の「いま」を考えよう

暮らし続けたいまちの姿は？ 選択した理想のまちの姿と理由



②まちや地域に誇りや愛着がもてる地域

▶「越谷阿波踊りをより一層の一大イベントにしたい」

③地域の住民が主体性を持って地域の活動やまちづくりに参加し合う地域

▶「増えてきている空き家を有効活用するなど、住民が考えてまちづくりをしてもよいと思う」

④からだも心もいきいきと健康に過ごせる地域

▶「健康寿命を長くして高齢者も安心して暮らしたい」

⑤子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域

▶「医療を充実させて安心して暮らしたい」

⑩地域の資産を守り活かせる地域

▶「文化施設を増やすことで地域の特色を作れるから」



いまの越谷の特徴は？(強み・弱み)

市民団体への参加をととして活動的な人が多く、助け合いの精神も感じられるという話があった一方で、それ以外の交流の場や、地域に関する情報を得る機会が少ないという声もありました。

<まちの状態についてYes/Noと主な理由>

③ 地域とのつながりやすさ

困っている人を見かけた時に声をかけるなど
協力しあう雰囲気があると思う

5-2 YES

▶ 助け合いの精神はある
▶ いざとなったら助けている

⑧ 行政との共創のしやすさ

行政と住民の間で情報共有をしながら
地域の課題解決に取り組んでいると思う

4-4 NO

▶ あまり情報の発信がされて
いない、または遅いと感じる

⑩ 暮らしやすさ

障がいがある人となない人が共に
交流したり活動したりする場がある

8-6 NO

▶ そうした場を知る機会が
ない

⑤ 地域資源の豊かさ

仕事や社会生活において、
自分の持っている知識や技術を十分に
発揮できる機会（場）があると思う

11-1 YES

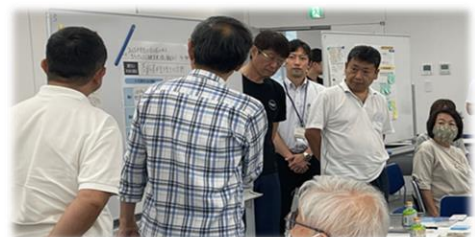
▶ 民間活力を活かそうと
されていると感じている

③ 地域とのつながりやすさ

地域にサポートが必要な人
（高齢・障がい・単身など）が
いるかどうかを把握できていると思う

5-3 NO

▶ 単身者の場合、自治会を
知らないことがある



2 越谷の「未来」を考えよう

未来に向けて重視したいことは？

- ▶誇れる特産品やスポーツがあるまち
 - ・まちの愛着のためには誇れるものが必要
- ▶美術館や郷土資料館があるまち
 - ・文化施設を増やすことで市民間の交流も見込めると思う
- ▶市からの積極的な発信があるまち
 - ・年代を問わず安心して暮らしていくにあたり、自分から情報を取りにいくのは大変なので、市から積極的に発信していく



創りたい未来の越谷のために自分たちでできること・必要な取組みは？

描く未来の
越谷

高齢者が生き生きとした街

必要な取組み
(具体的な意見)

- 老若男女隔てなく交流が大切
- 交流するにも移動が大変
- モビリティサービスを充実させる！
- 世代間交流コミュニティを構築
- 安心した暮らしのための情報共有の場をつくる！

3 まとめ

グループ5

取組み
テーマ

みんなが健康で共生して
住み続けられるまちづくり

2024年 7月 28日
第1回 市民懇談会を開催しました

今の強み！

人材が多い
市民活動団体
自然環境が良い

特に重視したいこと

年代を問わず
安心して暮らしたい

創りたい未来の越谷

高齢者が生き生きとした街

今の弱み

水害に弱い
医療福祉が整っていない

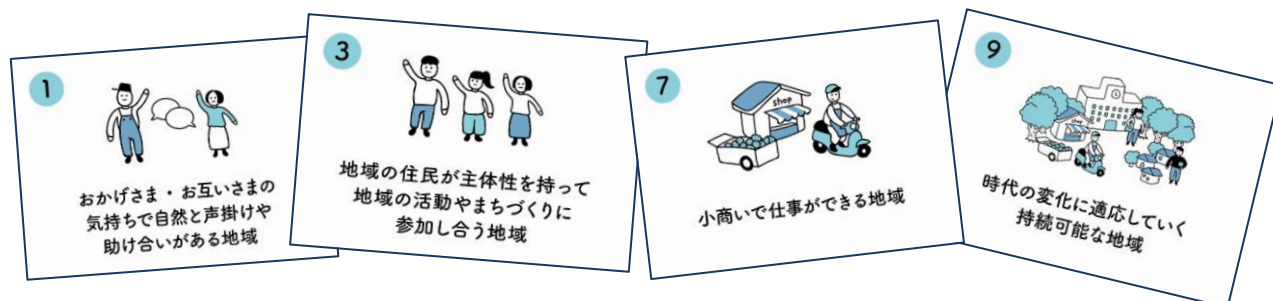
実現に向けて必要な取組み・アイデア

コミュニティサービスを充実させる
若い人から年配の人まで交流できる機会をつくる
移動が大変→モビリティサービス

グループ⑥ テーマ：みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり

1 越谷の「いま」を考えよう

暮らし続けたいまちの姿は？ 選択した理想のまちの姿と理由



- ①おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域
- ▶「働き盛りの人へスポーツを普及したい」「助け合いとともに権利の保障も大切」
- ③地域の住民が主体性を持って地域の活動やまちづくりに参加し合う地域
- ▶「お互いに顔見知りになり声掛けできる社会に」
- ⑦小商いで仕事ができる地域
- ▶「レイクタウン以外の小商いの店も商売を継続できるといい」
- ⑨時代の変化に適応していく持続可能な地域
- ▶「コンパクトな地域づくり(コンパクトシティ)を目指していくことを期待」「バス問題など、交通手段が充実するとより良い」



いまの越谷の特徴は？(強み・弱み)

障がいのある人との交流機会の少なさは、グループ内で共通して課題という認識がありながらも、高齢者支援が充実し、サポート体制が整っているという声もありました。

<まちの状態についてYes/Noと主な理由>

Ⓐ まちのウェルビーイング 愛着や誇りを感じる地域だと思う 2-1 YES ▶ 若い人が戻ってくる	Ⓒ くらしやすさ 病気や高齢になっても暮らしやすい体制（医療・福祉・生活支援）が整っていると思う 8-4 YES ▶ 近隣自治体よりも進んでいる	Ⓔ 地域資源の豊かさ 仕事や社会生活において、自分の持っている知識や技術を十分に発揮できる機会（場）があると思う 11-1 NO ▶ 大学で勉強したことを市への意見として活かしたい
Ⓓ 地域とのつながりやすさ 地域にサポートが必要な人（高齢・障がい・単身など）がいるかどうかを把握できていると思う 5-3 YES ▶ 把握しようと（市が）努力しているの見える	Ⓕ くらしやすさ 障がいがある人となない人が共に交流したり活動したりする場がある 8-6 NO ▶ 障がい者との交流が定着していない	

2 越谷の「未来」を考えよう

未来に向けて重視したいことは？

- ▶住んでいる地域にこれからも住み続けられる
 - ・人が集まる施設があることで交流が深まる
- ▶世代間交流の活性化
 - ・活き活きとしたまちには幅広い世代の交流が必要
- ▶一人ひとりを尊重する
 - ・人によって環境は異なるが、サポートする体制が整っていることが大切



創りたい未来の越谷のために自分たちでできること・必要な取組みは？

描く未来の
越谷

世代間交流で発展を目指し住み続けられる越谷

必要な取組み
(具体的な意見)

- 各地区で若者まちづくり懇談会を！
- 防災と地域のつながりを大切に
- 特産品など人を呼ぶ仕組みづくり
- 地域の公民館を中心に市民活動の活性化を行い巻き込み力を増やす！
- スポーツによるつながりの復活

3 まとめ



発行:越谷市 総合政策部 政策課

TEL :048-963-9112

FAX :048-965-6433

E-mail:seisaku@city.koshigaya.lg.jp